

6. 21世紀COEプログラム 平成16年度採択拠点中間評価【特色ある拠点例】

一人材育成面・研究活動面の双方が順調に進捗している拠点の例一

東京工業大学「地球:人の住む惑星ができるまで」

地質・地球物理・地球化学・惑星科学という従来から関連して進められている分野に環境学・生命科学を融合させて、革新的分野として生命惑星地球学の創出を目指す当拠点は、2年間に230編という優れた国際的研究業績を挙げるのみならず、研究科を横断した「生命惑星地球学特別コース」や「地球史研究センター」の設置など、人材育成や有機的連携面での措置も充実しており、世界的な研究教育拠点の実現に向けた取り組みが順調に進められている。

一人材育成面で順調に進捗している拠点の例一

京都薬科大学

「伝承からプロテオームまでの統合創薬の開拓ー生物分子基盤の革新的難病治療薬創製ー」

COE 発足以前から大学が持つ豊富な素材と実績を基盤に、難治性疾患の治療に資する数々の研究成果を挙げるとともに、英語による研究交流会の開催、関連分野への短期参画、アドバイザーとの定期的交流など、きめ細やかな少人数教育体制のもと、世界をリードする人材育成が順調に進められている。

一特色ある研究活動が推進されている拠点の例一

岐阜大学「衛星生態学創生拠点ー流域圏をモデルとした生態系機能評価ー」

生態プロセス研究、リモートセンシング解析、気象観測・モデリングの融合・統合を図り、総合的・実践的な環境科学である「衛星生態学」の創生を目指す当拠点は、小規模の研究組織体制ながら、リモートセンシングを用いた高山における長期CO₂観測サイトとして国際的な評価を受けており、世界水準での研究の発展に資することが期待される拠点として順調に推進されている。

大阪大学「細胞・組織の統合制御にむけた総合拠点形成」

基礎研究から臨床応用までを直結させた再生医学（人工臓器等の組織・臓器代替医療技術）を確立することを目標とし、基礎医学、生物学、臨床医学、工学等、異分野間の有機的連携面で目覚ましい進展を見せているほか、実際の研究活動でも数々の優れた成果を挙げており、大学に新たな個性を付加する拠点として順調に進められている。

九州産業大学「柿右衛門様式陶芸研究センタープログラム」

柿右衛門様式磁器の全体像を作陶現場との協同によって解明し、さらにはその成果を大学院カリキュラムに反映させ伝統工芸のレベルアップを図るというユニークな試みは、日本文化の発展、発信という点からきわめて意義が大きく、文様データベースの構築や国内外における磁器の所在調査等、大学に新たな個性を付加する拠点として順調に推進されている。

二松学舎大学「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」

日本漢文学の学際的・国際的研究体制の構築を目指す当拠点は、我が国の文化の理解、保存、発展、さらには発信に大きく貢献することが期待され、江戸期漢文データベースの構築等の意義深い取り組みが進められている。